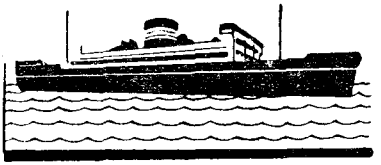

歐米再遊日誌 (2)

理學博士 山本一清

7月6日（水曜日）

歐洲へ米國から渡るためには，適當な船を一刻も早く約束しなければなるまいと思ひ，今日は朝から下町へ出かけて，スエーデン汽船や，フランス船，英國船，イタリヤ船等をあさり歩いたが，午後になつて，トマス・クク旅行會社の周旋により，ドイツ船 Deutschsland 號が良ささうな事が知れたので，同社からニウヨークの汽船會社へ交渉の電報を打つて貰ふことにした．16時になつて，良い船室の空いてゐることが知れ，約束した．

新聞に，神戸の水害の記事が出てゐる．

7月7日（木曜日）

朝，街路を散歩してゐると，はからずも，15年前オーバン神學校訪問の際會つたことのある佐藤氏に遭つた．それから，又，クク會社へ行つて，汽船賃と，ドイツ國流用の旅行用マルクとを買ひ，次いでユニオン・パシフイク鐵道支店でニウヨークまでの往復切符を買つた．

午後は荷作り，16時過ぎ，それも終つたので，フオルサム街に木崎氏を訪ね，晩餐を頂いた．

20時05分，木崎氏に見送られて，ロスアンゲレス驛を出發．

7月8日（金曜日）

昨夜から乘つてゐるのはユニオン・パシフイク御自慢の "The Challenger" と呼ぶ列車である．日本語に譯すると "此れでもか！" 號とでも言ふべきか？實に優秀なモダン列車である．コーチの車でも，まるで御殿造りのやうに美々しい，勿論，冷房裝置であるため，窓外の暑さと比べて，實に勿體ないやうに思ふくらゐ．午前中はネヴーダ州の高原を走つてゐたが，午後はユタ州に入り，18時ソルト・レーキ市に約半時間停車した時間を利用し，勸誘されるがまゝに，同市内の遊覽バスで一週した．有名なモルモン宗の本山やら，其の他の景色は，珍らしかつた．カリエンテ驛で山岳部時刻帶に入る．

7月9日（土曜日）

今日も同じ列車で東へ々々走り續ける，正午頃，右の窓外にロキ丨連山の山頂に白雪が見える．

20時05分オマハ着．こゝでワバシ線に乘りかへ，時計も中部標準時に變つて，21時30分にセントルイ市へ向つて出發する．

7月10日（日曜日）

朝8時0分，セントルイに着いた．クラ丨ク博士の古事を尋ねるため，市中に出て見たが，日曜のため，全く誰れも居ない．それに，車中と違つて，戸外は酷暑で，實に閉口した．止むを得ず，ボルチモア・オハヨ會社の "National" 號に乘り，9時30分出發，ワシントン市に向ふ．17時44分，シンシナ丨チ市に着，20分ばかりの停車中に一寸散歩した．

この汽車は，良い車だが，冷房がきゝ過ぎて，むしろ寒い，それで，夜中，冬用のシヤツやら，チヨツキ二つ，外套等，あらるる衣類を重ねて眠つた!!

7月11日（月曜日）

汽車は定刻8時に，ワシントン市ユニオン停車場に着．食事を終つて，電車で海軍天文臺に Robertson と Lewis 夫人とを訪ねた．去る9日 Cheynue 驛から出して置いた兩氏あての飛行郵便も今朝着いたとかで，貴君も飛行機でしたか!?" との御挨拶である．リキス夫人は "昨1937年の日食の接觸時刻の研究を語つて，A. J. 誌に投稿して置きました．貴君のペル丨での觀測結果は，米國隊のカントン島での結果と非常によく一致しました．共に見事な御腕前です" と，御賞めを頂いた．次いで，ロバ丨トソン氏は，月の位置研究のためには何百回の掩蔽觀測よりも，日食の觀測の方が遙かに重要であるとの說を主張せられる．後，自分は，リキス夫人から，來る1940年10月のブラジルに於ける皆既日食線の計算結果を見せられ，其れを寫し取つた．

午後は，13時半に，スミソン學院へ行つて，5年ぶりに C. G. Abbot 博士に會つた．博士は太陽熱の變動と氣象との關係についての最近の研究狀況を詳しく語られ，論文を2つ頂いた．それから，14時20分，コングレス圖書館にブラシ博士を訪ね．セントルイ市のクラ丨ク博士の古事の調査を依賴した．ワシントンは非常な暑さである．

15時45分，ユニオン停車場から B. & O. 線の特急列車 "The Royal Blue" 號に乘つて出發，19時44分ジヤシ丨市終點驛に着，それから連絡バスでニウヨ丨ク市コロンブス廣場に着，次で，20時40分（市中の夏期時刻では21時40分）第74街のコクマイ・ホテルに着いた.

7月12日（火曜日）

朝食後，第5街の日本總領事館へ郵便物を取りに行き，それからブリヂ街の川崎汽船支店に矢島支店長を訪問，照川丸の愉快な航海であつたことの報告と感謝をした．次で，フジ亭で日本食の午餐を頂いた．ニウヨ丨ク市では，日本食の料理店が益々增して，邦人以外の客が誠に多いのは，一寸驚くべきことではなからうか！

14時，第42街の滿鐵支社を訪ねたが，武田所長は旅行で，不在．次で第23通りの B. & O. 鐵道停車場へ行つて，荷物の事を確かめ，16時，宿に歸つた.

7月13日（水曜日）

いよ々々今夜ニウヨ丨クから歐洲へ向けて豫約して置いた船が出帆するので，今日は朝から市內各方面へ買ひ物などに行き，船中の讀みものや，寫眞のフイルム等を買つた．自有のカメラ等が皆米國製のものなので，歐洲で之れ等に合ふフイルムが容易に得られるか，どうか，心配する．

晩餐後，可なりゆつくり休息し，22時を過ぎて，見送られつゝ宿を出で先づ第23丁目河岸の B. & O. 鐵道停車場に數日來預けたまゝになつてゐる荷物一ケを受け取り，それから第46丁目の第86岸壁に横付けのバンブルグ・アメリカ線の "Deutschland" 號に乘つた．船室は第660號で小さくはあるが，獨り室である——船は夜半を僅か過ぎて，24時5分に纜を解いた．空には滿月が輝かいてゐる．港內港外の夜景を，他の船客と共に25時頃まで眺めた．風も波も無い.

7月14日（木曜日）

正午の船の位置，西經69°54′，北緯40°12′，出帆出來航走181海里.

船では，朝食が8時半，晝食13時．晩食は19時と定められた．但し，滿員なので．食堂が狹く．之れは我々第2班の食事時刻である．

7月15日（金曜日）

正午の船の位置，西經59°52′，北緯41°08′．昨日よりの航走460海里．

今曉，船內の時計を1時間進めた．之れで，丁度，日本の中央標準時と比べると，12時間の隔たりとなるから，彼我，晝夜轉倒の形である．

船中にドイツ國の旅行案內部出張所 Reise-Büro があるので，自分は到着後中央ドイツ周遊と，スエーデン國への旅行との汽車の切符を申し込んだ．此の Büro の取り扱ひによると，ドイツ國內周遊の汽車賃は6割引，又，國境への線では7割3分引きである．

7月16日（土曜日）

正午の船の位置，西經49°52′，北緯41°56′．昨日よりの航走452海里．

風も波も無いが，午後には非常な霧となり，夕刻頃，一時，船は洋上で停船した！ 之れには少々驚いた．何しろ此のあたりは，寒流や暖流と衝突する所で，かの1912年に巨船 "Titanic" が氷山にぶつつかつて沈んだのも此の邊なのだから，しかし，我等の船は20時過ぎからは又フルスピードで走り出した．

今夜は，食堂で映畫が見中られる．

7月17日（日曜日）

正午の船の位置，西經40°40′．北緯45°55′．昨日よりの航走435海里．

朝は船內が非常に靜かなのと，船が少しも搖れないので，今朝は9時まで眠つた．10時半から，婦人談話室で禮拜式があつた．一種の國際的禮拜式で，說教は3人の教授が，それぞれ英語と，ドイツ語と，ホンガリヤ語とで話された——しかし，流石にドイツ船なので，此の船の公用語も乘客の多數の言葉も，ドイツ語である．但し，小供たちは，アメリカ育ちが多いので，遠慮なく英語でやつてゐる．

夜は，夜半過ぎまで食堂ではダンスの好きな連中が踊り狂つてゐるらしい．しかし，室には少しも其れが聞えない．

7月18日（月曜日） 曇り．

正午の船の位置，西經30°42′．北緯48°37′．昨日よりの航走466海里．

正味23時間に466ノツト走るのであるから，船の平均速力は每時間20ノツト以上である．自分が今までに乘つた船の最高速力である．

今朝も眠り過ぎて，正午に起床した——風も波もなく，平隱な航海である．

船が北へ進むので，可なり寒くなり，冬のシヤツ等を用ゐる．

7月19日（火曜日） 曇り．

正午の船の位置．西經19°36′．北緯50°35′．昨日よりの航走448海里．

今朝も12時まで眠つた．

船中，皆々退屈なので，午後，一人の小供がゴム風せんを誤つて手放したので，高く空に舞ひ上つた——それが，追風のため，何時までも船と同じ速さで空を飛んでゐて，見えるものだから，大人たちも大騒ぎ！

夜は“キノ”（映畫）．どうも，ドイツ語のトーキーは判りにくい．

7月20日（水曜日） 曇り．

朝からアイルランドの陸が見え，半日ばかり其の西南岸に沿つて東走したが11時，Cobh 港外に着き，錨を降した．こゝは Cork 市に近い港であるが，港口の，まだ外洋と言つたやうな所で，停船して，小舟の客や荷物の揚げ降しをやつてゐる．久しぶりで，新聞を見る．但し，毎日，船内で發行してゐる“Atlantic Post”に載つてゐる國際ニウス以外は，興味もない．

夜，益々冷えるので，毛布を重ねる．

7月21日（木曜日） 曇り．

朝6時に，フランスのシエルボール港に着いた．有名な港であるが，大きい船らしいものは，我が船以外に一つも見當らない．又，船は港内に投錨したまゝで，小船により貨客の揚げ降しをやるといふ規模なので，少々驚いた．7時20分，出港．それから，北へ英國海峽を横切り，10時，英國ワイト島の水道に入り，12時，サザンプトン港外の Cowes 濱の沖に投錨した．之れとも又驚いた海洋の覇者たる大英國の有名な港の岸壁にまで此の船は近づかないで，全く田舍の港外に停つた有様である．海上は深いもやで，兩岸の様子も殆んど見えない．

13時頃，船は又動き始めたが，折角，英國の南海岸の近くを走るのに，シーイングが非常に悪く，日沒からはひどい霧となり，一時停船して，汽笛ばかり吹いた．勿論，このあたりは，大船小船が縱横に通つてゐるので，“衝突でもするのではないか”と，大に心配したが，夜が更けて，霧は晴れた．

7月22日（金曜日） 晴れ．

久しぶりの快晴である．今曉3時頃，眠がさめて，窓から見た所，右舷にオランダあたりの燈臺が3つばかり賑やかに見えてゐたが，夜が明けてからも，絶えず，ドイツの海岸を遙かに見つゝ進む，いよ々々今日はハムブルグに着くので，船客は朝から，落付いてゐない．

正しく12時に，所謂"ハムブルグ港"卽ち Cuxhaven の岸壁に着いた，岸には多くの出迎え人も居て，船中の人々と，ナチス式の擧手の禮を交換してゐる．こゝで，客も荷物も皆下船する．稅關其の他の手續きに時間を取つたので，皆，打ち揃ひ，臨時列車に乘つたのは16時10分であつた．そして，途中 Harburg に一寸止つただけで，18時に本統のハムブルグ市の停車場に着いた．

自分は降車して，An den Alster 街40番地の B. Y. J. M.（基督敎靑年會館）を訪ひ，總幹事 W. Stoltzner 氏と，會員 W. Sauer 氏とに會ひ，サヴ1氏の世話で，驛前の Reichshof ホテルに宿つた．

7月23日（土曜日） 曇り．

朝暫く散步したが，9時に約束の靑年 Martin Opitz 君が來てくれるので，案內されて，トマス・クク社支店に行き，8月中旬のニユヨーク行きの船の事を依賴し，それから，市外を遊覽した．まづ，Alsterdam 街から Rathaus, Jungfernstieg 街，Neuerwall 街，Altersteinweg 街，Gross-Neumarkt 廣場，Neuersteinweg 街，公園間の Bismark 侯石像，海洋氣象臺，それから St, Pauli 濱で，港內の船舶の往來がよく見える所で，休みつ，晝食を取り，其の後，名物だと言ふので，エルベ河底の大トンネルを往復し，次で，Seewarte 街から Michaelis 寺院を見，序でに Klefeker 街といふ舊時代の街路を寫眞に撮り，Michaelis 橋から，Alterwall 街を通り，元の Alsterdam 街に出で，14時にホテルに歸つた．夕方，獨りで，又，Mönckeberg 街あたりを散步した．

☆「天界」原稿送付先☆

「天界」原稿及特別に指定以外の觀測は，引續き當分の間，下記宛に御送り下さい．

京都市上京區東三本木丸太町上ル　信樂旅館內　木邊成麿